

東経トピックス

福岡発

鉄筋継手の未来のために 鉄筋継手研究会～第2回例会開催

近年、益々多種多様化する鉄筋継手工法について品質・施工・監理などの正しい知識と理解を深め、さらにはトータルコストダウンを推進している鉄筋継手研究会(事務局・福岡県大野城市仲畑、河村 貴夫代表)は去る6月29日、福岡商工会議所にて第2回例会を開催した。出席者の多くが建築構造物の設計・施工・監理に携わっている方々で、福岡市近郊に拠点を置く建築設計事務所、ゼネコン、鉄筋継手業者などで定員60名収容の会議室はほぼ満席となった。カリキュラムの内容は、第1部 鉄筋溶接継手工事、品質・施工監理のポイント～講師・清水建設(株)生産技術本部 品質管理検査グループの角陸 純一氏、第2部 工業化工法への取組と鉄筋継手の実例～講師・前田建設工業(株)作業所長 塚本 修史氏、第3部 建築工事原価低減の基本②～講師・ハタコンサルタント代表 降旗 達生氏、第4部 名刺交換会。途中質問・討議の時間も設けられた。平成21年秋、日本の鉄筋継手を管理する(株)日本鉄筋継手協会(旧・日本圧接協会)は、鉄筋継手工事標準仕様書の改訂を実施しており、工法ごとの品質・施工管理や継手の認定方法などの最新情報を習得すべく出席者は最後まで真剣な眼差しであった。第1部を担当した講師の角陸氏は「今後、建築物の



河村 貴夫代表



前田建設工業(株)作業所長 塚本 修史氏



清水建設(株)生産技術本部 角陸 純一氏

鉄筋継手性能評価基準は引き上げられ、さらにコストダウンが求められていく。評価基準を満たした競争力の高い業者のみが生き残るであろう」とコメント。事務局の河村代表は「より複雑化する鉄筋継手工法の正しい理解に向けて私ども施工業者だけでなく、建築設計者やゼネコンをも含めトータルコストダウンを考える研究会としていきたい」と抱負を語った。なお、同研究会は本年12月に第3回例会、同23年6月に第4回例会をそれぞれ開催予定である。

【鉄筋継手研究会】

事務局 (株)アクティス

〒816-0921 福岡県大野城市仲畑 4-2-38

TEL 092-501-5963

FAX 092-501-6651